

イチジクの木から学ぶ教訓

マルコ13:28~37 / 李正雨師

今日から待降節、アドベントが始まります。待降節は文字通り、主が来られるのを待ち望むシーズンです。このシーズンは、クリスマスの前に終わるので、私たちは待降節をただクリスマスの雰囲気盛り上げる日として認識しやすいです。しかし、待降節はクリスマスの雰囲気盛り上げるために立てられた日ではありません。この世に来られたイエス様と再び来られると約束されたイエス様の言葉を覚えて待ち望むシーズンです。それで、待降節の福音書は、主が来られる前の状況や、再び来られる主についての言葉などで埋められています。このような言葉は、私たちが主に集中することができるように、主を認識して暮らすことができるように、私たちを導いてくれます。そして私たちを準備させてくれます。私たちが5人の賢いおとめになるように、タラントンを稼いだ忠実な僕になるように、インスピレーションを与えるのです。これが待降節の意味であり、私たちがこの季節を過ごす理由です。

先週の金曜日である12月1日から、うちの子供たちには、待降節のプレゼントが与えられました。教会からいただいた待降節の暦、アドベントカレンダーですが、そのカレンダーの中には、各日ごとにチョコレートが1個入っています。12月1日から25日まで、毎日1つずつチョコレートを食することができるのです。子供たちは毎日チョコレートを一つずつ食べながら、クリスマスを待ちます。空いていくカレンダーを見て、イエス様が来られる日を待ち望むのです。そして、25番目のチョコレートを食べる日、子供たちは、その日がイエス様の日であることが自動的に分かるのです。イエス様の日が来るのを待つこと。これが待降節の意味であり、アドベントカレンダーが子供たちに与えられた目的です。

今日の福音書で、イエス様はご自分が再び来られる日について話されます。これを説明するために、イチジクの木をたとえとして挙げられますが、これはまるでアドベントカレンダーを通した信仰の教育と似ています。イチジクの木の変化を見て、夏が近づいていることが分かるように、弟子たちは、世の中の変化を見て、イエス様の日が近づいて来るのが分かるのです。29節でイエス様はこう言われます。「それと同じように、あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。」ここで「これらのことが起こるのを見たら」という言葉は、今日の福音書の前でイエス様がおっしゃった終末についての預言です。イエス様は終末の日が来ることとその日に起こることについて教えてください。弟子たちが終末の日に苦難を受けないように、惑わされないようにするためです。ですから、弟子たちは終末の日を備えることができるのです。子供たちがアドベントカレンダーを見て、クリスマスが近づいていることが分かるように、弟子たちもイエス様の言葉によって、終末が近づいていることが分かるのです。そしてイエス様は続けてこう言われます。30節です。「はっきり言うておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。」

私はこの文章の解釈が非常に重要だと思います。なぜなら、「この時代(ἡ γενεὰ αὐτῆς)」という時間的な概念をどのように受け入れるかによって、終末についての解釈が変わることもあるからです。通常「この時代」についての解釈は三つに分けられます。第一には、すべての人間の時代です。そうすれば、人間の終わりに起こることをイエス様が預言されたと見られます。第二には、ユダヤ人の時代です。そうすれば、ユダヤ人たちの終わりに起こることをイエス様が預言されたと見られます。第三には、当時の時間的な概念としての一代です。当時の人々は、一代を40年くらいに思いました。この解釈を受け入れると、イエス様は40年後に起こることを預言されたと見られます。

皆様はどんな解釈が正しいと思うのでしょうか。私は、この三つみんなが一理ある解釈だと思います。そして、聖書が言っている終末は、あらゆる時点に適用できると思います。例えば、イエス様の弟子といえば、12弟子だけを指すことではないでしょう。今の私たちから始めて、数多くの私たちの信仰の先輩たちと私たちに福音を伝えてくださった宣教師たちも、イエス様の弟子です。このように、聖書の終末というものは、ただ一つの時点を指すことではないと思います。イエス様がおっしゃった終末の時は、究極的にすべての人間の終末を語っていますが、その中で起こるあらゆる終末も含めているのです。

たとえば、「この時代」についての3番目の解釈を見てみましょう。「この世代」を40年として解釈すると、イエス様は、AD70年頃に起きたエルサレムの滅亡を預言されたと思なされます。エルサレムがローマ軍の攻撃を受ける前頃、イエス様が預言されたことが起こりました。ユダヤ人はローマの搾取に反感を持ち、ユダヤ地方では自らメシアという人々が立ち上がり、民衆を惑わしました。搾取と扇動によってユダヤ地域あちこちから暴動が起こり、ユダヤの行政長官がエルサレム神殿から莫大なお金を持ち出したことによって、エルサレムでは大きな暴動が起こります。この暴動によって、AD66年9月、ローマ軍が鎮圧のためにエルサレムに入ってくることを初めとして、約3年間の戦争が始まります。この戦争によって、イエス様が預言された多くの苦難も起こります。そしてAD70年、エルサレムはローマによって完全に陥落し、神殿は崩れます。ユダヤ人たちは様々な国に散らされ、これをディアスポラと呼ぶことになりました。

しかし、ユダヤとローマの戦争は、これで終わったのではありませんでした。この戦争は、3次戦まで続けられ、この3回にわたる戦争によって、ユダヤ人は国を立てる基盤を失うこととなります。つまり、これをユダヤ人の終末とみなすこともできるでしょう。では、この終末は、ユダヤ人や当時の世代にのみ関連しているのでしょうか。この時代を生きている私たちとは、全く関係がないのでしょうか。そうではないでしょう。世代や民族の終末は、今でも私たちの周りで起きています。最近起きたガザ地区の戦争だけでなく、中東の様々な戦争、ロシアとウクライナ戦争、中国と台湾の問題、ミャンマーの独裁、アフガニスタンの内戦など、終末として見られる出来事が私たちの時代で起こっています。そしてイエス様は、確かにご自分が再び来られる日、すべての人間の終末についても言われました。今日の福音書の前の箇所である24～27節には、この世の終末について書かれています。また、今日の福音書31節には「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」と書かれています。ですから、聖書の終末を、ある一世代や一つの民族の終末だけだとみなすことはできないのです。すべての民族とすべての時代に関連する終末、これがイエス様が言われた終末だと思います。

そして、このような終末は、いつ、誰に、どこから、どのように起こるかを予想することはできません。32節の言葉によると、イエス様は、終末の日はただ父だけがご存知であると言われます。過去に起きた様々な終末と未来に起きる終末の日は、神様のみがご存知であるのです。私たちは、終末の日を予想することも、計算することもできません。ですから、イエス様は私たちクリスチャンに、その日のために気を付けて、目を覚ましていなさいと言われます。目を覚ましている人がイエス様の言葉を覚え、終末の日を準備することができるからです。過去のユダヤ人のように、惑わされないために、間違った価値観に扇動されないためには、目を覚ましていなければならないのです。そして私たちは、目を覚ましていることによって、私たちの終末も準備することができるのです。その日を私たちが個人的な終末として迎えるか、世代や民族の終末として迎えるか、この世の終末として迎えるかは分かりません。しかし、目を覚ましているということだけで、私たちは、イエス様を迎えることができるのです。だから、気をつけてください。目を覚ましてください。世の中で起こっていることを御覧になり、イチジクの木からの教えを学んでください。その日を準備する者がイエス様を迎えることになるのです。

待降節が始まる今日。今日から、私たちは私たちの所に来られたイエス様を覚えて、再び来られるイエス様を待ち望みます。そして、待降節の間、イエス様の言葉と約束を聞くこととなります。私は、これらすべてのプロセスが私たちを目覚めさせると思います。主の言葉が私たちを目覚めさせ、待降節の待つことを通して、私たちは終末を準備することができるようになります。ですから待降節は、私たちが必ず覚えなければならないシーズンであり、私たちの信仰生活に欠かせないシーズンなのです。使徒パウロは、コリントの信徒への手紙の終わりにこう書きました。「マラナ・タ。(主よ、来てください)。」そして、この言葉は初代教会の祈り文でも見つかります。主が来られることを待ち望む信仰。これが私たちが持つべき信仰だと思います。待降節が始まる今日、イチジクの木から大きな教訓を学ぶ皆様になりますように。主を待ち望んでいる皆様に、神様からの恵みが臨みますように、主の御名によって祈ります。アーメン